

## 花川病院 伴 幸恵(事務職員／総務課)

**功 績** 職員の新型コロナウイルス発症した事を受け、感染経路を確認するが1名は不明(約2週間前のコロナ受入病院同行)、1名はセラピストで訓練実施後、同居家族発症連絡が入り濃厚接触者(その後、出勤停止中発症)。この段階で感染経路不明、院内・施設内に無症状者が在籍していると想定した対策として、保健所相談の結果、感染拡大防止対策としてアイガードを追加することとしスピード感のある対応と医師より使用とのアイデアをだし短期間で準備、定着させてくれた功績。

**推 薦 者** MaD 田地 英生

**推 薦 理 由** 医療職のサポートとして臨時委員会の議事録作成、院内掲示、感染防止用品補充など、いつも笑顔で明るくスピード感をもって対応してくれる姿が、発言し易い職場の雰囲気をつくり、新型コロナへの危機感を職員へ浸透させ、ボトム式で意見が出るきっかけとなった。彼女の行動は理事長賞に値すると考え推薦します。

### 内 容

---

患者さんへのマスク着用は、10月より準備期間として、ご家族への協力、売店および自動販売機での準備等実施済で、11月1日より院内全員マスク着用としたが、10月中は患者さん全員は中々定着しなかった。イラストを入れた工夫したマスク着用の掲示を作成し院内掲示(承認捺印)。このタイミングの中、職員の発症もあり、医師・看護・リハスタッフからも個別に患者さんへ周知し、マスク着用が定着できた(この効果が低リスク者となったことが大きかった)。

そして、今度はアイガード確保の指示が入り、フェイスシールドを確保し配布して使用開始するが、使い勝手が悪く職員より不評だった。額に密着し目をガードできるものをあらゆる業者をあたり、大崎メディカルの商品を見つけ、大量に購入するためサンプルを取り寄せることとした。そして、一番感染させてはいけない医師へ「手術時に使用中の物なので先生から使ってみてください」との巧みな声掛けでサンプル使用。当院医師が使用してみて大好評となり、先頭を切って医師が使用したことで全員使用への定着がスピードアップした。

この他にも、ガウン、マスク、手袋等の防護用の確保および各部署の疑似患者発生等にあわせ各部署の使用料配布、食事中の会話禁止、更衣室でのマスク着用等も目に付くところに掲示してくれ、職員が危機感を持ち遵守できた。

今回、江別・札幌保健所の2ヶ所との対応を通じて、業務一時停止の危機を濃厚接触者低リスク該当と判断されたこと非常に大きかったと考えている。